

安全運転普及活動報告書 2009

INDEX

ごあいさつ	2
2009年の交通社会の動き	3
2009年の活動報告	4
特集1：地域に根ざした活動の充実	8
特集2：Hondaらしい先進性・ 独自性のある活動の展開	10
幼児・小学生に向けて	12
中高生・大学生に向けて	14
運転者に向けて	16
普及活動の連携・強化	19
高齢者に向けて	20
活動の広がり	22
資料編	24





本田技研工業株式会社 取締役
安全運転普及本部 本部長

曾田 浩

日頃はHondaの安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。おかげさまで今年もさまざまな分野で安全運転普及活動を展開することができました。この場をお借りし、改めまして御礼申し上げます。

さて本年の交通事故死者数は、第8次交通安全基本5ヵ年計画の目標「5,500人以下」を達成した昨年をさらに下回るペースで着実に減少しております。これは交通安全に関わる官民はもとより、交通社会に参加する一人ひとりの努力の成果であり大変喜ばしいことと思っております。

しかしながら、高齢者の事故死者比率の増加や自転車事故件数の全体に対する構成率増加など憂慮すべき状況は依然続いております。「事故のない道路交通において世界一安全な国」の実現をめざし、2009年年頭に政府より示された「10年後を目途に、さらに交通事故死亡者数を半減させる」という目標に向けて、高齢者や自転車事故対策などの重点課題への取り組みが不可欠と考えております。

これまでHondaは、人に焦点を当てた「手渡しの安全」という考えから、二輪・四輪・汎用製品の販売会社による啓発活動や全国8ヵ所の交通教育センターにおける参加体験型の実践教育活動を中心に展開してまいりました。さらに、交通安全対策の重点が高齢者や自転車対策に変化する中、「地域に根ざした活動の強化と充実」を図る

ため、昨年の熊本製作所に加え、今年は栃木・埼玉・浜松・鈴鹿の各製作所にも地区普及ブロックを設置しました。地区普及ブロックは、地域の警察、自治体、交通関係諸団体等の皆様と連携しながら、Hondaの交通安全ノウハウを地域の交通安全につなげる活動をスタートさせ、今年度はこれまでに3万人以上への普及を行うことができました。

また子どもから高齢者を対象に幅広く、自転車交通安全教育に役立てていただくため、来年初めには、「Honda自転車シミュレーター」を発売いたします。これまでの教育に加え、自転車乗用時の危険予測や気づきを促す新たな教育機器として自転車教育の可能性を広げることができると確信しております。

今後もHondaとしましてはすべての交通参加者の安全快適なモビリティの実現に向けハード、ソフトの両面から社会に寄与してまいりたいと存じます。交通安全普及活動におきましては、特に地域の皆様と一体となった交通安全活動の展開や先進的な機器やプログラムの提供により、情熱的で高い志を持った交通安全指導者の輪を広げ、安全意識の高い交通参加者を一人でも多く増やせるよう努力してまいりたいと思っております。

最後に、皆様のますますのご健勝とご発展を祈念申し上げます。と共、私たちの活動への変わらぬご理解、ご協力の程お願い申し上げます。

2009年の交通社会の動き

1月

- 2008年の全国の交通事故死者数は、8年連続で減少し5,155人となった。また、発生件数および負傷者数も4年連続で減少し、負傷者数は10年振りに100万人を下回る等、2010年までに交通事故死者数を5,500人以下および死傷者数100万人以下とする「第8次交通安全基本計画」の目標を2年前倒しで達成。

2月

- 交通安全に対する国民の意識を高める国民運動「交通事故死ゼロを目指す日」の実施(2/20、4/10、9/30)。

4月

- 子どもと高齢者の交通事故防止をテーマに「春の全国交通安全運動(4/6~15)」を実施。
- (社)日本自動車工業会「2009年春季交通安全キャンペーン(4/6~5/6)」を実施。四輪は後席シートベルトの着用、二輪はヘルメットの正しい着用の徹底を訴求。また、運転者へ車道走る自転車への注意喚起を行った。
- 国際交通安全学会研究調査報告ならびに学会賞贈呈式(4/17)。

6月

- 飲酒運転に対する罰則が大幅強化(6/1)。
- 75歳以上のドライバーの免許更新時における講習予備検査(認知機能検査)が始まる(6/1)。

7月

- 二輪業界が8月19日の「バイクの日」を中心に、楽しさ、安全、ライダーシップをテーマに「バイク月間」を実施(7~9月)。
- 東京・日比谷公園で「バイクの日スマイル・オン2009」を開催し、交通安全啓発のためバイクパレードを実施(8/18)。

9月

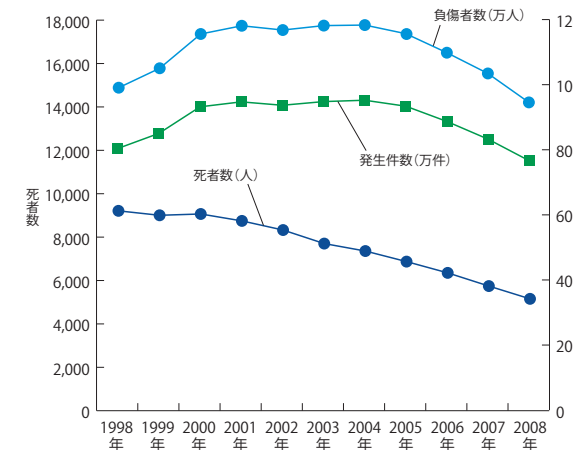
- 内閣総理大臣が指定する三輪の自動車を二輪車とみなす等の改正道交法が施行(9/1)。
- 高齢者の交通事故防止をテーマに「秋の全国交通安全運動(9/21~30)」を実施。
- (社)日本自動車工業会「2009年秋季交通安全キャンペーン(9/21~10/20)」を実施。春季の内容に加え、高齢者の歩行中・自転車乗車中の死者数を減らすため、薄暮時の安全運転の呼び掛けとともに、夕方早めのヘッドライト点灯促進を訴求。

10月

- 高速自動車国道等における車間距離保持義務違反の基礎点数、反則金の額(普通自動車の場合)の引き上げの実施(10/1)。

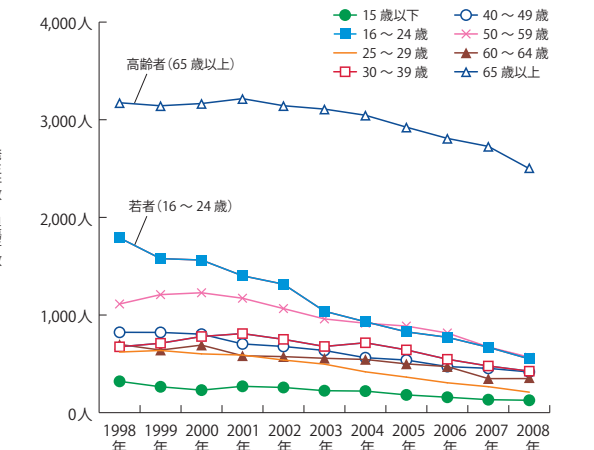


交通事故発生状況の推移



2008年の交通事故死者数は、8年連続で減少し5,155人に。2010年までに交通事故死者数を5,500人以下にする目標を2年前倒しで達成。

年齢層別死者数の推移



死者数を年齢層で見た場合、高齢者(65歳以上)が占める割合は約半数(構成率48.5%)で最多となっており、高齢者への安全対策が重要。

出典：警察庁交通局「平成20年中の交通死亡事故の特徴及び道路交通法違反取締り状況について」

すべての人の安全をめざして。 地域と連携した取り組みを強化し、 全国への普及基盤づくりを展開。

安全運転普及本部 事務局長 千葉英雄



Hondaセーフティナビ(P11)

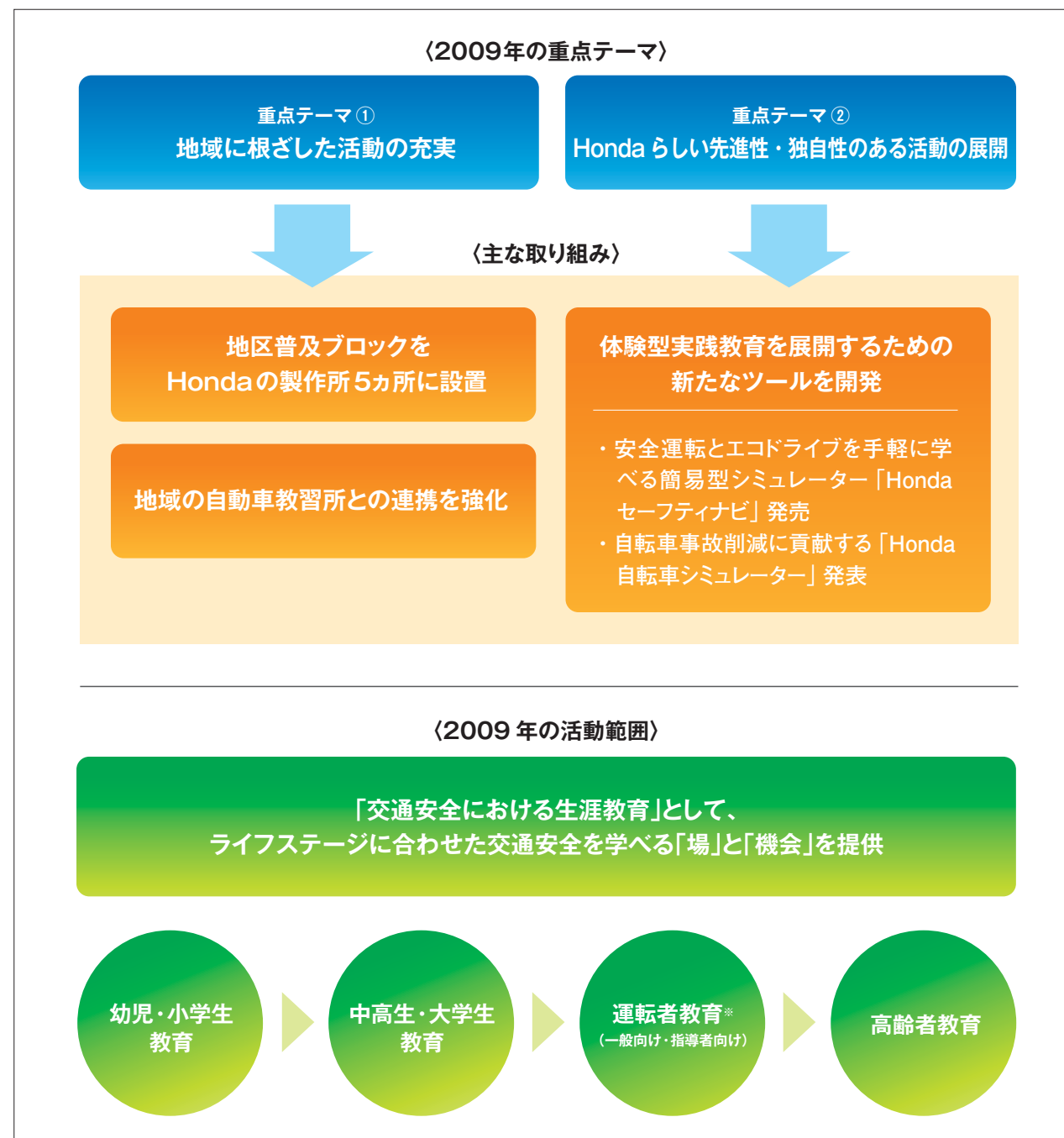


Honda自転車シミュレーター(P11)



あやとりい(P13)

2009年の活動について



* 運転者教育は主に交通教育センターが担い、その他の教育は地区普及ブロックが主に担当しています。

はじめに

Hondaはお客様に製品(ハード)をお渡しするだけでなく、安全(ソフト)もお渡しすることが重要との考えのもと、「Hondaが社会的責任として行う企業活動」として、従来から安全運転普及活動を販売会社や交通教育センターで展開しています。さらに、ますます複雑化する混合交通社会の中で重視しているのが、子どもから高齢者まで、それぞれのライフステージに合わせた交通安全を生涯教育として学べる場と機会の提供です。また、その実践に向け、地域に暮らす一人ひとりが主役となってご参加いただけるような「地域に根ざした活動」も、私共の大きな指針です。今年も、「指導者の育成」「教育の場と機会の提供」「教育プログラムと手法の開発、教育機器の開発・提供」を3本の柱としながら、従来より変わることのない、人に焦点をあてた安全運転普及活動の充実に向け、積極的に取り組んでまいりました。

2009年の重点テーマ

今年も、重点テーマとして「地域に根ざした活動の充実」と「Hondaらしい先進性・独自性のある活動の展開」の2つを掲げ活動いたしました。

1. 地域に根ざした活動の充実

交通安全を学ぶ場と機会を全国に広げるための活動拠点として、昨年4月に熊本製作所に設置いたしました「地区普及ブロック」を栃木、埼玉、浜松、鈴鹿の各製作所に設置いたしました。地区普及ブロックには専任のインストラクターを配置し、地域での活動を主導する指導者の育成および参加体験型実践教育の場と機会の提供を最重要課題として、地域の方々が交通安全を学ぶこと

ができるような体制を整えました。さらに地域の自動車教習所、自治体、団体、警察などと連携しながら、地域社会と一体となって交通安全教育を実施できる環境基盤が整ったと考えています。

2. Hondaらしい先進性・独自性のある活動の展開

近年、交通社会では自転車による事故が問題となっており、環境への対応も社会的関心事項となっています。そのような課題に対して、今年も新たな取り組みをいたしました。これまで二輪車・四輪車における「運転技術の向上」と「危険を安全に体験する」ことを目的に革新的な開発を実現してきたHondaのシミュレーターに、「Hondaセーフティナビ」と「Honda自転車シミュレーター」が新しく加わりました。場所を選ばずエコドライブと安全運転を学べる簡易型シミュレーター「Hondaセーフティナビ」は、販売会社などで多くの方にご利用いただいています。また、自転車乗用時の危険予測トレーニングができる「Honda自転車シミュレーター」は、2007年より学生や高齢者の交通安全教育の場で試験的にご利用いただいていたが、今年10月に発表を行い、来年2月の発売に向け準備を進めています。これらのシミュレーターを使った新たな教育手法を開発し、さらには各種研究などにご活用いただけるようにしていくことも私共の使命と考えています。

親子で学べる機会の増加

私共では、「交通安全における生涯教育」として、子どもから高齢者まで交通安全を体系的に学べる教育プログラムの確立は重要な課題であると考えています。Honda独自の交通安全教育プログラムである「あやとりい」は、そうした課題を解決する一つであり、時代や社会のニーズに応えるべく、交通安全教育の場において



親子交通安全教室(P12)

自転車交通安全教室(P14)

エコ&セーフティドライブ(P17)

しあわせ高齢ドライバースクール(P20)

いきいき運転講座(P21)

参加体験型の実践教育(あやとり、長寿編:P21)

一層ご活用いただける内容へと改編いたしました。そのほかにも、親子で楽しく交通安全を学べる「親子交通安全教室」や「親子でバイクを楽しむ会」の開催、キッズデザイン博での交通安全ワークショップの出展など、子どもと一緒に保護者の方も学んでいただけるプログラム開発にも積極的に取り組みました。楽しい思い出とともに、親から子へ、ご家庭でも交通安全をくり返し学んでいただくためのノウハウをご提供できたと思っています。

学生向け運転者教育の拡充

中学生・高校生になると、自転車や二輪車を運転し、交通社会に運転者の立場で参加する機会も多くなります。そのため、自転車事故の多い年齢である中学生・高校生を対象とした「自転車交通安全教室」、通学などで二輪車を使用する高校生や大学生ライダーを対象とした「二輪車安全運転教室」など実技を交えた実践的な安全教室を開催しました。

さらに近年、自転車乗用時における危険を擬似体験し、危険予測のトレーニングを目的とした「Honda自転車シミュレーター」を活用した新しい形の集合教育も始動しており、今年10月の発表を受け、一層の広がりをみせています。

エコドライブを通じた安全運転の普及

運転者に向けては、燃費向上を実現するエコドライブと安全運転を両立した「エコ&セーフティドライブ」を推進し、「Hondaセーフティナビ」を使用した販売会社でのエコドライブアドバイスが始まるなど、社会のニーズに応えながら、「手渡しの安全」をお届けする活動に取り組みました。交通教育センターにおいても、企業のお客様

のニーズに合わせ各種安全運転やエコドライブに関する研修プログラムをオーダーメイドで作成して実施するなど、お客様視点に立った、より効果的な活動を行うことができたと考えています。

指導者育成の充実と拡大

今年の重点テーマである「地域に根ざした活動の充実」の実践に向け設置した5ヵ所の地区普及ブロックでは、地域における指導者育成についてもさまざまな活動を行っています。地域の皆様のご理解とご協力により、地域と一体となって活動を広げる指導者づくりの基盤が整いつつあります。地域の指導者が増えることにより、今後はその方たちを中心として、子どもや高齢者に向けた交通安全教育の機会も増えていくものと期待しています。言い換えれば、地域の指導者による継続的な活動と定着が今後の課題であり、継続的なサポートを展開していきたいと考えています。

企業や関係諸団体の交通安全担当者様などに対する指導員育成に加えて、今後は、一般の方にも指導者として活躍いただけるような環境づくりに、多方面のご理解とご協力を賜りながら積極的に取り組んでまいります。

高齢者に向けた教育プログラムの運用

高齢者に向けては、栃木県の高齢運転者研修である「しあわせ高齢ドライバースクール」に、以前から交通教育センターで開催している「Honda健康ドライブスクール」のカリキュラムが採用されました。このカリキュラムは、加齢にともなう身体機能の変化について気づいていただくことを目的として組み立てられています。座学だけでなく、参加者が実車を使ってコースを走行している様子を撮影し、

その映像を参加者自身が客観的に見て振り返ることで、自分の運転の問題に対する気づきを促す教育手法が評価されています。また、同じく高齢者に向けた交通安全教育プログラムである(社)日本自動車工業会の「いきいき運転講座」を活用した普及活動にも取り組みました。現在増加している高齢歩行者の事故のみならず、歩行者と運転者どちらの立場にも対応した交通安全教育プログラムの実施と運用は、今後も大きなテーマとなると考えています。

2009年の活動総括と2010年に向けて

今年は、子どもから高齢者まで、それぞれのライフステージに合わせた参加体験型の実践教育プログラムと、交通安全教育の全国展開に向けた普及体制の基盤が確立できたと考えています。特に各地区普及ブロックは、将来的に全国の皆様が積極的に普及活動を行っていただくための基盤として十分整備されました。これもひとえに地域の皆様のご協力があったからこそ感謝しています。共に活動することを通じて、地域における交通安全へのニーズが高いことを改めて実感いたしました。今後は、この基盤をより強固なものとし、地域に根ざした安全運転普及活動に継続的に取り組んでまいります。

来年は、安全運転普及本部の誕生から40周年を迎える節目の年となります。さらに複雑化、多様化する昨今の交通社会においても、これまで培ったノウハウや経験を最大限に活かし、さまざまな展開を行っていく所存です。最近取り組みを始めました、HondaのOBの皆様による安全運転教育の展開もその一つとして考えています。これまでの「安全な製品をつくる」という立場から、直接「安全運転の知識や技術を手渡す」立場へ、Hondaの安全

運転普及活動の大きな力になってくれるものと確信しています。

また、販売会社の活動に関しては、Hondaの行動指針である「現場・現物・現実」という「三現主義」を体現する、お客様と直接触れ合う「手渡しの安全」の大切な活動拠点の一つとして、よりお客様に信頼され期待される安全運転普及活動に取り組んでまいります。

そのほか、長年にわたり蓄積されたシミュレーション技術を活かした新たな教育ツールの開発や、社会的にも関心が高い飲酒運転根絶に向けた取り組みにも、積極的にチャレンジしてまいります。社会のニーズに応え、より豊かなモビリティ社会の実現に向けて、私共は普及活動をより進化・拡大してまいります。地域の活動には、自治体や警察などの行政・関係諸団体や、地域住民の皆様との連携が不可欠です。今後とも、皆様のご協力とご支援をお願いいたします。

地域の方々と共に取り組む 定着性・継続性のある活動

複雑化している混合交通社会で交通事故を防止するためには、運転者だけでなく、子どもから高齢者まで、すべての方々への交通安全教育が必要です。Hondaでは、交通安全教育を「生涯教育」と捉え、すべての交通参加者を対象に活動しています。地域の皆様と連携し、さらに定着性・継続性のある活動をめざして、今年度は、「地域に根ざした活動」を全国に展開していくための基盤づくりに取り組みました。



地域と一体となった交通安全

Hondaでは、これまで全国8ヵ所にある交通安全センターと、四輪・二輪・汎用販売会社を活動拠点として、運転者を中心とした安全運転普及活動を充実させてきました。

そして昨年、子どもから高齢者まで、地域と一体となった交通安全教育を全国に広げるための新たな活動拠点として、熊本製作所に設置した「地区普及ブロック」を今年度は栃木、埼玉、浜松、鈴鹿の各製作所にも設置しました。

地区普及ブロックには専任のインストラクターを配置し、自治体や警察、教育機関、関係諸団体などと連携しながら交通安全活動を展開。地域の実態やニーズに合わせた参加体験型実践教育の場と機会を提供しています。また、さらに活動を定着させ、継続的なものにしていくため、地域が必要としている交通安全活動の指導者づくりについてもサポートしています。今年度は指導者養成も含め3万人以上の方々へ啓発活動を行いました。

今後も5ヵ所の地区普及ブロックは製作所のある地域を基点に活動のエリアを拡大し、将来的には全国規模での展開をめざしています。日本全国で各年代に適切な交通安全教育を提供するための体制づくりを地域と一体となって取り組んでいきます。

自動車教習所との連携強化

Hondaは、地域において交通安全活動に積極的に取り組んでいる自動車教習所と連携し、交通安全の輪をさらに広げ、定着させるための活動を始めました。Hondaの活動拠点だけではカバーできる範囲はどうしても限られてしまうため、地域に根ざした活動を全国に広げ、定着させていくためには、自動車教習所との連携は非常に重要であると考えています。

今、自動車教習所は運転免許取得教育の場としてだけでなく、地域で交通安全教育を実践する場としても期待されており、子どもから高齢者まで幅広い年代への生涯教育に真剣に取り組む自動車教習所も増えています。Hondaは、こうした同じ志を持つ自動車教習所と連携し、Hondaの持つ教育プログラム・教材の提供、指導者のレベルアップ教育などを通じて、自動車教習所が主体的に行う交通安全活動をサポートしています。提携先の教習所は昨年の13校から今年度は31校へと拡大しています。



警察署と連携して「あやとり、長寿編」を開催(栃木普及ブロック)



いきいき運転講座指導者研修(埼玉普及ブロック)



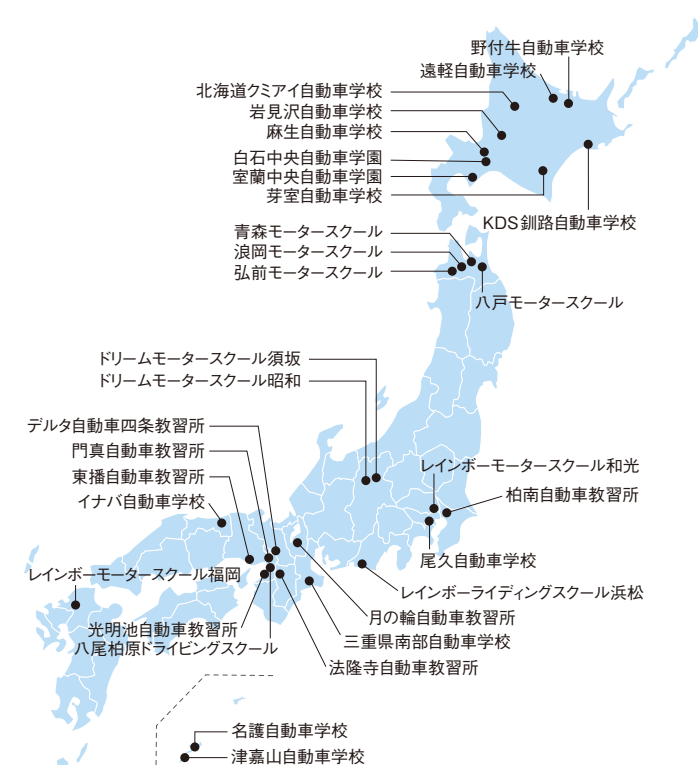
高校生に自転車シミュレーターを使用した交通安全教室を開催(浜松普及ブロック)



交通安全指導員と連携し「あやとり自転車教室」を開催(鈴鹿普及ブロック)



親子交通安全教室(熊本普及ブロック)



提携教習所は20社・31校(2009年10月現在)



沖縄県での交通安全教室(名護自動車学校)

危険を安全に体験する 新たなシミュレーター開発

交通安全教育は、「気づき」がその第一歩であると考えています。
危険を擬似体験することで、気づきを促し、危険予測能力を高めることにつながります。
Hondaのシミュレーターは、「危険を安全に体験する」ことを基本にしています。
体験して危険場面を知ること、自らの行動につなげてほしいからです。
生涯教育を実践する教育ツールとして、安全な交通社会の実現に貢献していきます。



シミュレーターの開発と可能性の拡大

Hondaは、1970年より培ってきた安全運転普及活動のノウハウを活かし、実際の交通状況を想定した体験型の教育機器の一つとして、シミュレーターを開発してきました。実車での参加体験型実践教育に加え、シミュレーターによる混合交通場面で遭遇しやすい危険を安全に体験することで、安全運転教育の効果を高めることができると考えています。昨年さらに進化した「Hondaライディングシミュレーター」も誕生。現在は、社会のニーズに応える「環境」や「自転車」などの新しいシミュレーターを開発しています。



昨年発表されたHondaライディングシミュレーター



Hondaライディングシミュレーター

環境と安全を意識した運転を学ぶ 「Hondaセーフティナビ」

今年5月に発売した「Hondaセーフティナビ」は、Hondaのシミュレーター技術を最大限に活用し、より多くの方にご利用いただくことをめざして開発されました。安全運転とエコドライブの共通点に着目し、従来のドライビングシミュレーター技術に環境に優しい運転のポイントを加えています。イベント会場や販売会社の店頭では、気軽に楽しく学べる点が評価され、体験した方からは「今まで知らなかったエコドライブの知識を学べ、とても有意義だった」「右左折の際に注意すべきことを再確認できた」といった声もいただきました。

2010年3月には「Hondaドライビングシミュレーター」のフルモデルチェンジを予定しています。これまで以上に教育現場で使いやすく、効果的な次世代シミュレーターの開発を進めています。



販売会社でのセーフティナビ体験。安全運転とエコドライブが学べる (Honda Cars神戸)



Hondaセーフティナビ



画面でエコドライブのポイントをアドバイス

シミュレーターの新ラインナップ 「Honda自転車シミュレーター」

近年、10代や50代以上の方の自転車事故が増加傾向にあります。その原因の約7割は交通ルールの違反です。今年10月に発表した「Honda自転車シミュレーター」は、自転車を運転する際に起こりうる危険を安全に体験することで、危険予測能力や安全意識の向上を図り、交通ルールとマナーを楽しく学ぶことができる教育機器です。2007年から全国各地の小・中・高等学校や高齢者の自転車教育の場などで試用していただいていたが、今後は来年2月の発売を契機に交通安全教育の場への普及を拡大していきます。



自転車シミュレーターを使った高校生対象の自転車交通安全教室。画面の様子を大きくモニターに映し出すことも可能なため集合教育にも適している (八戸モータースクール)



Honda自転車シミュレーター

地域と一体となった 子どもたちへの交通安全啓発

活動テーマ

「止まる」「見る」を
軸とした
体験教育を提供

2009年の主な活動

- 2月** ●三重県の新入学を祝うよ
子のついでに「あやとりい ひ
よこ編」を開催
- 3月** ●熊本県、大分県各地区にて
「親子交通安全教室」を開催
(～11月)
●京都府「わたしのしごと館」に
て動画KYTを使用した子ども向
け「交通安全教室」を展開
- 4月** ●熊本県、栃木県の小学校にて
「あやとりい」教室を開催(～11月)
- 5月** ●東京都でのWE RIDE チャレ
ンジ三宅島'09モーターサイクル
フェスティバル in お台場にて
「親子でバイクを楽しむ会」を開催
- 7月** ●埼玉県でのソニックシティ大
宮ちびっ子広場2009にて「親
子交通安全教室」を開催
●静岡県の小学校にて「自転車
交通安全教室」開催(～11月)
- 8月** ●東京都でのキッズデザイン博
2009にて「親子で楽しめる交
通安全ワークショップ」を開催、
Honda自転車シミュレーターを
出展
●東京ビッグサイトで開催された
「第44回交通安全子供自転車
全国大会」にHonda自転車
シミュレーターを出展
●茨城県にて「あやとりい ひよ
こ編」「あやとりい」指導員育成
研修を開催
- 10月** ●熊本県でのカントリーゴールド
2009にて「親子でバイクを楽し
む会」を開催
●栃木県、三重県、佐賀県の
バルーンフェスタにて「親子でバ
イクを楽しむ会」を開催(～11月)

よき交通社会人となるための資質は、運転免許を取得してドライバーやライダーとなったときにはじめて身につけるのではなく、幼児期からの成長段階に合わせた交通安全教育によって養われます。こうした考えのもと、Hondaは子どもたちへの交通安全教育を行ってきました。そして、交通社会の入り口にいる子どもたちの交通安全教育は、保護者、学校の先生、地域の交通安全指導員の方々と一緒に取り組むことが大切だと考えています。

親子で一緒に見て学ぶ「親子交通安全教室」

地区普及ブロックでは、週末などを利用して親子で楽しく交通安全を学ぶことができるイベント「親子交通安全教室」を、自治体や関係諸団体、関連企業と協力して開催しています。例えば熊本普及ブロックでは、「熊輪会」*1とともに、市町村、警察、学校などと連携し、子どもが歩行中、自転車乗用中に遭遇しやすい事故事例を再現。人形を使った歩行者の飛び出しや自転車の左折巻き込みなどの実験を行ったり、四輪車から見た死角の範囲の広さをわかりやすく説明しています。親子で「見て」「聞いて」気づきを促すプログラムは、子どもにもわかりやすいと参加者に好評です。



親子交通安全教室は幼児から小学校低学年の子どもとその保護者の方が対象
(熊本普及ブロック)



左折するトラックに巻き込まれる事故を再現
(熊本普及ブロック)



四輪車から見た死角の範囲をわかりやすく説明
(熊本普及ブロック)

子どもの成長に合わせた交通安全教育

交通安全教育プログラム「あやとりい」*2はHondaが三重県鈴鹿市と協力して開発したもので、成長に応じ三つのプログラムがあり(詳細は — すべての人の安全をめざして — P6-7参照)、今年も自治体や小学校、幼稚園、警察署と連携して全国各地で333回開催し、約6万人(10月末現在)の方にご参加いただきました。鈴鹿普及ブロックでは教育効果を高めるため、一歩進んだ取り組みを展開しています。「あやとりい ひよこ編」では、幼稚園・保育園周辺の道路を幼児と一緒に歩いて、教室で学んだことを実践してもらえるようにしています。また、「あやとりい 自転車教室」では小学生に自転車で公道を走行してもらい、実際の交通場面に応じたアドバイスを行っています。

さらに、今年は教育現場でより手軽にご活用いただけるよう、12時間分の授業内容で重要なポイントを1時間にまとめた小学3・4年生対象の「あやとりい」のダイジェスト版を作成しました。

現在、地区普及ブロックでは「あやとりい」のダイジェスト版を活用して、地域の子どもたちを対象にクルマは急に止まれないことや、止まる・見ることの大切さを実験を通じて気づいてもらうという安全教室を実施しています。また、地域の交通安全指導員などを対象に、「あやとりい」の指導方法を伝える研修も実施

しています。今年8月には、茨城県主催の「幼児交通安全教育指導者講習会」において、地区普及ブロックのインストラクターが幼稚園教諭や保育士、交通安全指導員を対象に「あやとりい ひよこ編」の実演を交え、効果的な指導方法を説明しました。

こうした活動を通じて、さらに多くの地域に「あやとりい」を普及させるための体制づくりを強化していきます。

より多くの子どもたちに伝えるために

Hondaでは、より多くの子どもたちに交通ルールやマナーの重要性を知ってもらうため、子どもが集まるイベントでの啓発活動も積極的に展開しています。

その一つが「親子でバイクを楽しむ会」。保護者が先生となって、子どもにバイクの操作方法や交通ルール、マナーの大切さを伝えていく中で、親子の絆を深めていただけるような内容となっています。今年は、お台場(東京都)、大宮(埼玉県)をはじめバルーンフェスタなど各地のイベントで開催しました。

また、今年8月に新たに開催した「キッズデザイン博2009」では、「親子で楽しめる交通安全ワークショップ」を行い、「Honda交通安全かるた」や「Honda自転車シミュレーター」を使って、子どもたちに楽しみながら交通ルールを学んでいただきました。



未就学児を対象に行っている「交通安全キャラバン」では、トレーニングを積んだプロの俳優が幼稚園や保育園を訪問し、「あやとりい ひよこ編」を活用した交通安全教室を開催



「あやとりい ひよこ編」を使用した幼稚園での交通安全教室(鈴鹿普及ブロック)



お台場での親子でバイクを楽しむ会(埼玉普及ブロック)



「あやとりい ダイジェスト版」を使用した小学校での交通安全教室(栃木普及ブロック)



「Honda交通安全かるた」を題材にした交通安全ワークショップ(本部推進ブロック)



沖縄での親子でバイクを楽しむ会(熊本普及ブロック)

*1 九州各地のHonda協会の38社からなる組織。
*2 あんぜんを・やさしく・ときあかし・りかいて・いただくの略。幼児向け「あやとりい ひよこ編」、小学3・4年生向け「あやとりい」、小学生対象の「あやとりい 自転車教室」、高齢の歩行者・自転車利用者向け「あやとりい 長寿編」があります。

よき交通社会人となるための 安全運転の基礎を伝える

活動テーマ

事故当事者になりうることを
認識してもらう

2009年の主な活動

- 4月** ●埼玉県の県庁にて「知事と学ぶ交通安全～力を合わせてシミュレーターに挑戦」にHonda自転車シミュレーターとHondaセーフティナビを出展
- 6月** ●静岡県の高等学校にて「自転車交通安全教室」を開催（～12月）
●三重県の中学校にて「自転車交通安全教室」を開催（～11月）
- 7月** ●熊本県の高等学校にて「高校生二輪車安全運転教室」を開催
●静岡県の小学校にて「自転車交通安全教室」を開催（～10月）
- 10月** ●静岡県の中学校にて「自転車交通安全教室」を開催（～11月）
●熊本県の大学にて「大学生二輪車安全運転教室」を開催
- 11月** ●栃木県の高等学校にてHonda自転車シミュレーターを使った「自転車交通安全教室」を開催
●茨城県の中学校、高等学校にてHonda自転車シミュレーターを使った「自転車交通安全教室」を開催

自転車乗用中に最も事故に遭いやすい年代は16～24歳であり、次に多いのは15歳以下です。中学生から大学生に相当するこの年代は、交通社会に「運転者」としてはじめて仲間入りする時期でもあります。自転車や二輪車を通じて安全運転の重要性や危険予測を身につけていただくことが、事故の防止につながると考え、Hondaでは中学生・高校生・大学生への交通安全教育に取り組んでいます。

自転車運転時の危険を安全に体験する

地区普及ブロックでは、中学生・高校生向けに「Honda自転車シミュレーター」を活用した自転車交通安全教室を開催。さらに地域の交通安全活動に積極的に取り組まれている自動車教習所とも連携し、自転車シミュレーターを活用した指導マニュアルづくりや、指導者の育成も行っています。

中学生・高校生対象の自転車交通安全教室開催に対しては、自治体や警察、地域からの要請も増えてきています。浜松普及ブロックでは、地元警察署と連携して、市内の中学・高校への自転車教育に取り組んでいます。例えば、浜松工業高等学校や中野学園オイスカ高等学校などの生徒に対し、自転車シミュレーターを使って安全な乗り方を指導しました。

また、提携教習所でも自転車教育を積極的に行っています。青森モータースクールでは地元の高校を対象にした交通安全教室の中で、自転車シミュレーターを使った集合教育を実施。生徒のひとりに携帯電話のメール操作や、傘をさし

ながらの運転を体験してもらい、その運転を生徒同士で振り返り、危険に気づいてもらうというものです。体験した生徒からは、「これからはルールやマナーを守るよう心がけたい」など、運転の問題点に関する「気づき」を感じさせるコメントも聞かれました。また、デルタ自動車四条教習所では、京都市内の高校生を対象に「自転車交通安全教室」を開催し、自転車シミュレーターを使いながら、運転時の危険予測ポイントを説明しました。自転車の安全運転教育を通じて、将来のライダー・ドライバーとして必要な、安全運転の基本を身につけていただきたいと考えています。

事故から身を守るための運転方法を伝える

通学で二輪車を利用している高校生や大学生ライダーを対象にした、「二輪車安全運転教室」も行っています。熊本普及ブロックでは、大津高等学校、立命館アジア太平洋大学（APU）の学生を対象に、パイロンスラローム、急制動など「走る・曲がる・止まる」という基本を身につけるための実技のほか、日常点検の重要性についても説明しました。また、大津高等学校では被害事故に遭うケースが多いという同校の事故実態を踏まえ、生徒に四輪車から見た死角を体験して

もらい、死角に入らないような運転を心がけるよう指導をしています。

動画で危険予測をトレーニング

交通教育センターでは、高校生を対象にした「二輪車安全運転講習会」でパイロンスラロームなど二輪車の実技指導を行っています。さらに実技だけでなく、実際の運転に近い状態で交通事故の危険を学ぶことができる「動画KYT（危険予測トレーニング）・二輪車編」を導入。はじめに、コンピュータグラフィックの運転映像を見ながら、生徒一人ひとりに危険だと思ふ箇所を考えてもらった後、どの場面が危険か、危険を招かないためにどうするべきかなど、生徒同士でディスカッションをし、自分以外の人の考えや見方を学びます。これにより二輪車を運転する際の、危険を予測する能力をさらに高めることができ、事故を未然に防ぐことへの教育効果が期待されています。



自転車シミュレーターを活用した自転車交通安全教室（鈴鹿普及ブロック）



「埼玉県知事と学ぶ交通安全」にて活用される自転車シミュレーター



中野学園オイスカ高等学校での自転車交通安全教室（浜松普及ブロック）



大津高等学校の学生への二輪車の安全運転教室。まずは座学で理解していただく（熊本普及ブロック）



四輪車から見た死角体験で危険を実感（熊本普及ブロック）



自転車シミュレーターによる集合教育（青森モータースクール）



動画KYTで危険予測能力を高める（アクティブセーフティトレーニングパークもてぎ）

交通教育センターの一つアクティブセーフティトレーニングパークもてぎでは、栃木県立真岡工業高等学校に原動機付自転車に通学する生徒91人を対象に、原付安全運転講習を実施。生徒たちは実技と動画KYTを組み合わせた講習により、事故に巻き込まれないための運転を学んだ



社会のニーズに対応した 効果的な安全訴求の拡大

活動テーマ

事故を起こさない 運転の習慣化と 技術向上

2009年の主な活動 運転者

4月 ●タイのバンコクに交通教育センターを開設
●「エコドライブ&セーフティガイド」発行

5月 ●Hondaセーフティナビ発売

6月 ●三重県鈴鹿サーキットにて「第9回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」を開催
●神奈川県での安全健康快適フェア2009にドライビングシミュレーター、Honda自転車シミュレーター、Hondaセーフティナビを出展

7月 ●沖縄県にて「Honda交通安全企業セミナー」を開催

8月 ●埼玉県にて「09トラフィック・セーフティ・フォーラム in 埼玉」を開催

9月 ●熊本県でのホンダドリーム合同ツーリングにて「親子でバイクを楽しむ会」を開催、HondaライディングトレーナーとHondaセーフティナビ体験を実施
●スペインのバルセロナに交通教育センター開設

10月 ●Enjoy Honda SUZUKAで「交通エコロジー教室」を開催、HondaセーフティナビとHonda自転車シミュレーターを出展
●熊本県にて「09トラフィックセーフティセミナー in 熊本」を開催
●三重県にて「09トラフィック・セーフティ・フォーラム in 鈴鹿」を開催
●沖縄県の自動車学校にHonda自転車シミュレーターとHondaセーフティナビを貸出協力、二輪車実技研修の指導者育成に協力

Hondaは、安全運転普及活動の原点でもある運転者に向けた「参加体験型実践教育」、人から人への「手渡しの安全」を活動の原則として「人」に焦点をあてた活動を積極的に展開しています。それらを実践するための「場」と「機会」を提供するとともに、さらに、より危険を安全に体験するためのソフト開発も重要と考え、取り組んでいます。

体験を通じて安全を手渡す「交通教育センター」

参加体験型の実践教育の場として、交通教育センターがあります。現在、全国8カ所で社内外の指導者育成や、企業、学校、個人のお客様を中心に安全運転教育を行っています。今年は約9万人(10月末現在)の方にご利用いただきました。

個人のお客様向けには、Hondaモーターサイクリスト・スクール(二輪)やHondaライビング・スクール(四輪)を開催。受講者のスキルやニーズに合わせ、楽しく安全を学べるさまざまなプログラムを展開しています。

企業向けには、業務内容や運転者のキャリアに合わせた教育プログラムを、オーダーメイドでご提供しています。運転経験の少ない新入社員が増えていることもあり、新入社員向け安全運転教育を充実させる企業も多くなっています。また、実際の交通状況に近い映像を見て、注意力や危険予測力を高めることができる「動画KYT(危険予測トレーニング)」による座学も企業の注目を集めているプログラムです。



安全運転とエコドライブを合わせて学べる「セーフティ・エコドライブ研修」のニーズは高い(鈴鹿サーキット交通教育センター)



動画KYTを取り入れた研修(アクティブセーフティトレーニングパークもてぎ)



トラフィック・セーフティ・フォーラムでのセーフティナビ体験(交通教育センターレイボー埼玉)

昨年からは、環境に配慮した「エコドライブ」と「安全運転」の共通点に着目してプログラムに取り入れた「セーフティ・エコドライブ研修」が始まりました。

また、今年は全国5カ所で、交通教育センター主催による「トラフィック・セーフティ・フォーラム」を開催。企業が取り組んでいる安全活動の事例発表や有識者によるパネルディスカッションなど、企業や諸団体の交通安全推進担当者様の情報交換の場としてご活用いただき、550人以上の方にご参加いただきました。交通教育センターレイボー熊本では、新たに「安全な職場を目指すコミュニケーション・スキルアップ」をテーマに、対人関係スキルを磨くグループワークを実施。会場は大いに盛り上がりました。

ニーズに応え変化する「販売会社」

お客様に直接、製品と安全を手渡す活動の主体となっているのが四輪・二輪・汎用販売会社です。安全運転に関するHonda社内資格(セーフティコーディネーター^{※1}、チーフセーフティコーディネーター^{※2}、ライディングアドバイザー^{※3}、モンパル安全運転指導員^{※4}など)を取得したスタッフが、店頭やイベントで個別にアドバイスを行っています。販売会社では、お客様

への定期的なアドバイスや、安全講習会などの店頭活動からイベントまで独自に活動しています。

今年は四輪販売会社のスタッフを対象に「エコドライブアドバイスポイント研修」を16法人289人(10月末現在)に対し実施しました。この研修で学んだことを店頭活動に取り入れ、安全アドバイスにエコドライブの視点を加えた「エコ&セーフティドライブ」を通じて、お客様との絆づくりを進めている四輪販売会社も増えています。例えば、Honda Cars東京中央では、お客様にお店の周辺を運転していただき、同乗したスタッフがその運転を見ながらアドバイスしています。

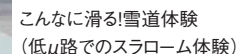
また、毎年春と秋の交通安全運動と連動し、オールHonda^{※5}で展開している「Hondaセーフティキャンペーン」でも、店頭でパンフレット「エコドライブ&セーフティガイド」や、のぼりによる訴求を行いました。今後もあらゆるニーズに応じた取り組みを行ってまいります。



お客様イベントとドライビングスクールを融合させた「エンジョイモビリティワールド」を交通教育センターレイボー浜名湖で開催(Honda Cars静岡西)



車は急に止まれない!(反応ブレーキとCMBS体験)



こんなに滑る!雪道体験(低μ路でのスラローム体験)



販売会社スタッフへのエコドライブアドバイスポイント研修(交通教育センターレイボー埼玉)

- ※1 お客様に店頭などで安全アドバイスができます。
- ※2 安全講習会の企画立案、開催の実施指導ができます。
- ※3 お客様に「二輪車の正しい取り扱い」や「安全な乗り方」を伝え、安全で楽しいモーターサイクルライフをサポートします。
- ※4 店頭やお客様のご自宅などで、モンパルの安全な乗り方や正しい取り扱いなどについてアドバイスを行います。
- ※5 Hondaの全事業所・各部門、交通教育センター、四輪販売会社、二輪販売会社(Honda Dream)、汎用販売会社、ホンダ輸送グループ。



店頭でのエコ&セーフティドライブはお客様から好評(Honda Cars神戸)



都市対抗野球ではヘルメットにシールを貼ってエコ&セーフティをアピール

運転者 に向けて

2009年の主な活動 運転者

- 11月 ●静岡県にて「09トラフィック・セーフティ・フォーラム in 浜松」を開催
- 栃木県にて「安全運転指導セミナー」を開催
- 熊本県の大津からいもフェスティバルにて交通安全教室を実施
- 兵庫県の東播自動車教習所にて自転車シミュレーター指導者を育成
- 沖縄県での「Hondaエンジョイセーフティフェスティバル」にてHonda自転車シミュレーターとHondaセーフティナビ体験を実施、「ライディングスクール」を開催

2009年の主な活動 活動連携

- 6月 ●熊本県二輪車安全普及協会安全運転講習「グッドライダーミーティング」に指導協力
- 二輪車安全運転推進委員会特別指導員研修会へ協力
- 7月 ●沖縄県二輪車安全普及協会安全運転講習「グッドライダーミーティング」に指導協力
- 8月 ●三重県の鈴鹿サーキットにて「第42回二輪車安全運転全国大会」を開催、審判派遣協力
- 9月 ●熊本県二輪車安全運転推進委員会指導員研修会に指導協力
- 10月 ●警察庁「第41回全国白バイ安全運転競技大会」審判派遣協力
- 二輪車安全運転推進委員会特別指導員養成講習会および審査に指導協力(～11月)

地域との連携強化

企業の交通安全推進担当者様の交流と指導力向上の場として、今年は7月に沖縄県警察などのご協力のもと、「Honda交通安全企業セミナー ～安心経営のための社内交通安全活動」を開催しました。セミナーには63人の方にご参加いただき、座学と実技体験を実施。座学では、企業の交通事故削減の事例を紹介し、動画KYTを使った危険予測トレーニングを行いました。また実技体験では、地区普及ブロックのインストラクターがエコドライブに必要な運転操作を説明し、その後参加者一人ひとりがHondaのハイブリッドカー「インサイト」を運転し、エコドライブを実践していただきました。

さらに沖縄県での活動として、11月に県や県警察、教育委員会などのご協力のもと、「Hondaエンジョイセーフティフェスティバル」を開催しました。プログラムの一つであるセーフティライディングスクールでは、参加した一般ライダー、企業ライダーに実技を通して、安全運転のポイントをアドバイス。指導はHondaのインストラクターだけでなく、連携先である地元の教習所指導員の皆様にもご協力いただきました。

このように、参加体験型の実践教育の場を提供させていただくことで、地域の方々に安全運転意識を高めていただくと同時に、地域の指導者が主体となった活動のきっかけづくりにしていきたいと考えています。



沖縄での企業セミナーではHondaの活動も紹介(熊本普及ブロック)



沖縄での「Hondaエンジョイセーフティフェスティバル」で実施したセーフティライディングスクールに参加する日本郵便のライダー(熊本普及ブロック)



沖縄での「Hondaエンジョイセーフティフェスティバル」にてコースイン前に説明を受ける一般ライダー(熊本普及ブロック)

普及活動の 連携・強化

関係諸団体との連携を強化し 交通事故の削減に努める

「交通事故のない社会」をめざして日々活動をされている関係諸団体の方々とも、積極的に連携しながら活動の拡大に取り組んでいます。また、社会のニーズに合わせた情報提供にも取り組んでいます。

交通安全の関係諸団体や業界との連携

全国の自動車教習所指導員の皆様の自己研鑽への動機付けや交流の場をご提供することを目的として、2001年より「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」を鈴鹿サーキット交通安全センターで開催しています。今年は6月に開催し、75校179人の教習指導員の皆様にご参加いただきました。

また、(社)日本自動車工業会の一員として「春と秋の全国交通安全運動」や国土交通省主催「ハイブリッド車等の静音性に関する対策検討委員会」などの活動に積極的に協力しました。

二輪車では、(社)全国二輪車安全普及協会が展開する参加体験型の安全講習会「グッドライダーミーティング」の機会拡大や、(財)全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会が展開する活動に協力し、指導員研修での指導や各種競技大会などの審判で参画しています。

さらに役立つ情報提供をめざして

交通安全活動を広く全国に普及していくために、どなたにもわかりやすく、気軽に交通安全に接することができる、さまざまなツールを発行しています。今年、エコドライブに対する社会的なニーズに応え、エコドライブと安全運転のコツをわかりやすくお伝えするためのパンフレット「エコドライブ&セーフティガイド」を、新たに発行。販売会社店頭などでお客様に配布しました。

また、1971年より発行してきたHondaの交通安全情報紙「Sj(セーフティジャパン)」を、4月より大幅にリニューアルしました。交通安全の教材として活用できる機能の強化と、各地域での取り組み・指導方法を紹介する記事を充実させました。

これまで四輪販売会社向けに発行してきた「SAFETY4」についても、ハード・ソフトの両面から「Honda Carsとお客様をつなぐ四輪総合安全情報誌」として、Hondaの安全情報を幅広く取り上げる内容となりました。この他、二輪・汎用販売会社にもお客様への店頭安全アドバイスに役立つ「SAFETY2」「SAFETY MONPAL」を発行しています。今後も、さまざまな方にさらに役立つ情報の提供をめざしてまいります。



第9回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での四輪競技



リニューアルした「Sj」紙面



「Sj」のwebサイトもリニューアルし教材もダウンロードできる



第9回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での二輪競技



「エコドライブ&セーフティガイド」



「SAFETY4」



「Honda交通安全かるた」は親子で遊びながら交通ルールやマナーを学べる

いつまでもいきいきと 交通社会に参加するために

活動テーマ

自らの身体機能の
変化を認識し
自発的な改善へ導く

2009年の主な活動

- 7月** ●滋賀県にて「あやとりい 長寿編」の高齢指導者研修を開催
●栃木県にてHonda健康ドライブスクールがカリキュラムに採用された高齢者研修「しあわせ高齢ドライバースクール」を開催（～2010年2月）
- 9月** ●栃木県の各地区にて「あやとりい 長寿編」を開催（～10月）
●静岡県浜松市での声かけ運動開始式にて「高齢者交通安全教室」を開催、Honda自転車シミュレーターとHondaセーフティナビを出展
- 10月** ●埼玉県の小鹿野ふれあい健康フェスティバルにて「あやとりい 長寿編」を開催
●埼玉県（財）いきいき埼玉にて「いきいき運転講座」の指導員育成研修会を開催
●静岡県にて「いきいき運転講座」の高齢指導者研修を開催
- 11月** ●三重県にて「いきいき運転講座」の高齢指導者研修を開催
●静岡県各地区にて「高齢者交通安全教室」を開催
●静岡県各地区にて交通安全指導員による「いきいき運転講座」の開催を支援

医療の進歩と団塊世代の高齢化にともなって、健康で活動的な高齢者が増えることが予想されます。その一方で2008年の自動車乗車中、自転車乗用中、歩行中の交通事故死者数を年齢層別にみると、いずれも高齢者（65歳以上）が最多です。加齢による身体機能の変化などに高齢者自身が気づかず、意識と実際の行動にずれが生じることが原因の一つと考えられます。Hondaでは、高齢者の方々にいつまでもいきいきと交通社会に参加し続けていただくために、交通ルールや安全運転の知識・技術を再確認し、自分の行動の問題点に対する「気づき」を促す活動を推進しています。

いつまでも安全に運転していただくために

2007年に開発した高齢者向けの少人数制教育プログラム「Honda健康ドライブスクール」は、自己観察法^{※1}とコーチング手法^{※2}と呼ばれる方法を取り入れています。実車を使って自分の運転行動をビデオに録画し、それを見て問題を認識・認識した後、正しい行動を考えるという流れです。それにより、自分の行動を客観的に理解し、問題点に自ら気づき、運転への行動変容を促すことを目的としています。

このプログラムは行政が進められている高齢者への安全対策にも積極的に活用されています。例えばアクティブセーフティトレーニングパーク^{もてぎ}では、栃木県の高齢者研修「しあわせ高齢ドライバースクール」に、このプログラムが採用さ



栃木県で行われた「しあわせ高齢ドライバースクール」
（アクティブセーフティトレーニングパークもてぎ）



実際の運転をビデオ録画して教育に活用



「Honda健康ドライブスクール」テキスト

れています。来年2月までには、栃木県内では約300人の高齢ドライバーを対象に実施される予定です。今後、さらに多くの方々にご参加いただけるよう、活動を進めています。

歩行中や自転車乗用中も安全に

「あやとりい 長寿編」は高齢者の歩行者・自転車用の交通安全教育プログラムです。意識と実際の行動のずれや、加齢による身体機能の変化を考慮した安全な歩き方、自転車の乗り方などを、写真や動画を使った座学や実車体験で学びます。各地区普及ブロックでは自治体や地域の方々にご協力いただき、今年は29回開催し、3,376人（10月末現在）の方にご参加いただきました。例えば、栃木普及ブロックでは筒とボールを使い、見えないところから飛び出してきたものにすぐに反応するのは難しいということを体験し、飛び出しの危険性や一時停止の重要性を高齢者に気づいていただく講習を行っています。

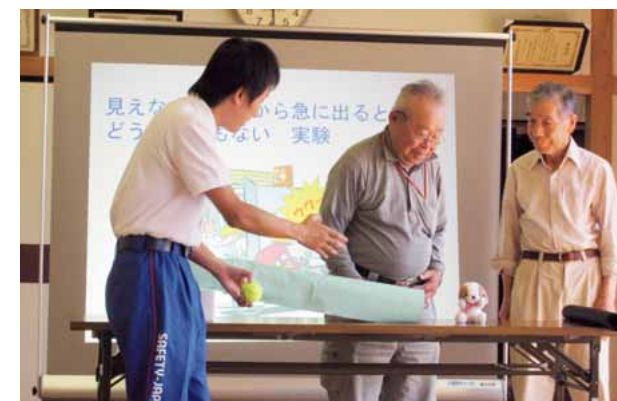
高齢者の自転車乗用中の事故が増加していることから、埼玉県では県警と協力して「Honda自転車シミュレーター」を地域の高齢者に体験していただき、安全な自転車の運転方法を確認していただく活動をしています。今後も自治体や警察、

関係諸団体と協力し、体験していただける場を増やしていきたいと考えています。

業界と一体となって高齢者教育を展開

（社）日本自動車工業会が開発した「いきいき運転講座」は、交通安全トレーニングと、危険予測に必要な脳の働きを高める「脳トレ」を組み合わせたプログラムです。参加する高齢者自身がリーダーとなり、グループで話し合いながら進行するため、交通安全とともに地域の方々との交流を深めるきっかけにもつながります。

埼玉普及ブロックでは、（財）いきいき埼玉（埼玉県シルバー人材センター連合）と連携し、「いきいき運転講座」の普及活動を開始しました。（財）いきいき埼玉が統括する68拠点から一各ずつ講座にご参加いただき、将来的には各拠点の交通安全リーダーとして「いきいき運転講座」を普及していただくことをめざしています。



「あやとりい 長寿編」の筒とボールを使った実験（栃木普及ブロック）



自転車シミュレーターを活用した埼玉県警の高齢者対象自転車交通安全教育研修会



「いきいき運転講座」のテキストと教材



（財）いきいき埼玉と連携しての高齢者に向けた指導者研修（埼玉普及ブロック）

※1 東北工業大学の太田博雄教授らが（財）国際交通安全学会などで研究成果を報告している手法で、自分の運転を録画して観察し、「我が身振り見て、我が振り直す」手法。

※2 相手の中にあるリソース（知識、経験、考え）を指導者が望ましい方向へ引き出すことにより、自ら課題解決させようとする手法。

国内から海外へ広がる安全運転普及活動

「すべての人の安全」をめざし、国内では8カ所の交通教育センターと5カ所の地区普及ブロックから全国へ展開。海外では現地法人を軸に、販売会社での活動や交通教育センターの拡充を図っています。

国内展開

今年は18の都道府県で安全運転普及活動を展開しました。



A アクティブセーフティ トレーニングパークもてぎ
(活動開始/1997年)

日本初の「スリッパコース」をはじめ、さまざまな危険を安全に体験できる先進施設を活用し、官庁・企業・団体や一般向けの各種教育プログラムを用意。



B 交通教育センター レインボー 埼玉
(活動開始/1980年)

直線600mのコースを活用した高速ブレーキ、危険回避等の訓練が可能。官庁・企業・団体をはじめ地域密着のさまざまなニーズに応える教育プログラムを用意。



C 交通教育センター レインボー 和光
(活動開始/1997年)

地域に密着した官庁・企業・団体の一般研修、指導者研修、一般向けスクールなど、さまざまな教育プログラムを用意。運転免許取得教習も行っている。

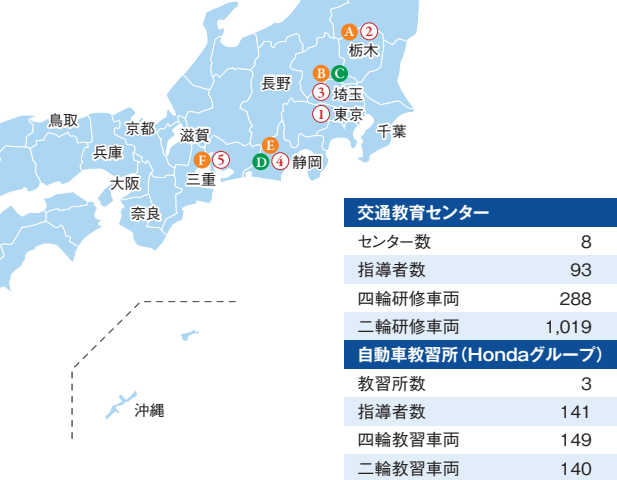


D 交通教育センター レインボー 浜松
(活動開始/1982年)

地域に密着した官庁・企業・団体の一般研修、指導者研修、一般向けスクールなど、さまざまな教育プログラムを用意。運転免許取得教習も行っている。

- ① 安全運転普及本部
- ② 栃木普及ブロック
- ③ 埼玉普及ブロック
- ④ 浜松普及ブロック
- ⑤ 鈴鹿普及ブロック
- ⑥ 熊本普及ブロック

※ C、D、E は教習所併設校です。



E 交通教育センター レインボー 浜名湖
(活動開始/2002年)

教育効果を上げるための独自の運転診断システムを取り入れた教育プログラムを用意。官庁・企業・団体の一般研修、指導者研修、一般向けスクールを開催。



F 鈴鹿サーキット 交通教育センター
(活動開始/1964年)

官庁・企業・団体の一般研修、指導者研修、一般スクールなどお客様ニーズに応え、鈴鹿サーキットレーシングコースを利用した教育プログラムもある。



G 交通教育センター レインボー 福岡
(活動開始/1973年)

地域に密着した官庁・企業・団体の一般研修、一般向けスクールなど、さまざまな教育プログラムを用意。運転免許取得教習も行っている。

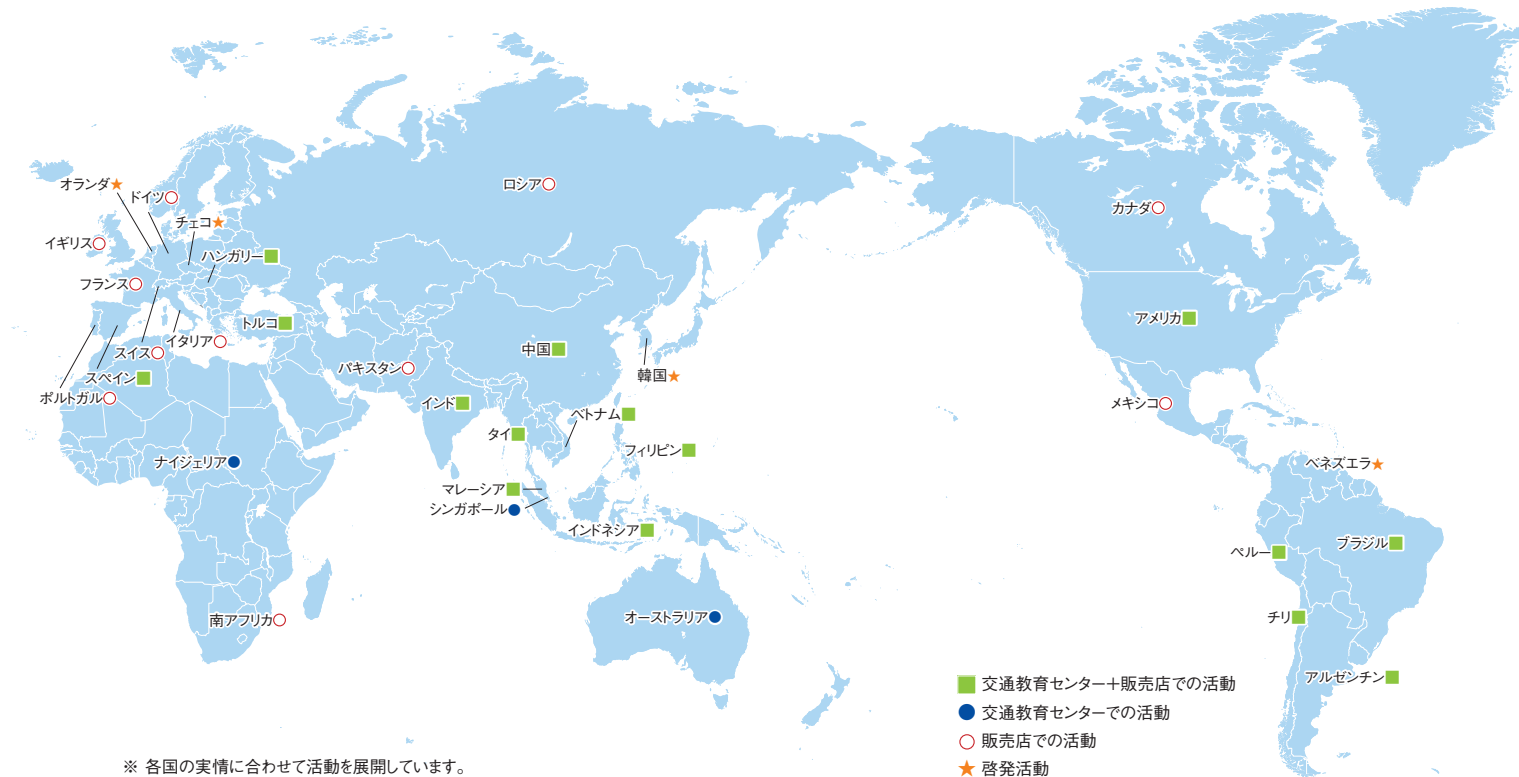


H 交通教育センター レインボー 熊本
(活動開始/1989年)

官庁・企業・団体をはじめお客様ニーズに合わせて、地域に密着したさまざまなスクールを開催。サーキットコースを使用した教育プログラムも用意。

海外展開

今年はタイのバンコク、スペインのバルセロナに新しく交通教育センターが誕生し、世界33カ国で活動を展開しました(日本を除く)。



交通教育センター 新設

タイ・バンコク

従来の二輪車に加え、大型二輪車、四輪車の研修と免許取得教習に対応。ASEAN最大の敷地面積(3.3万㎡)を誇り、コース面積は2万㎡。多くの方に学んでいただける環境が整っています。



スペイン・バルセロナ

スペインではじめてとなるHondaの交通教育センターです。子ども、初心者、スキルアップをめざす運転者、警察などのプロフェッショナルまで幅広い講習を提供しています。



活動トピックス

フィリピン

交通教育センターと銀行がタイアップし、二輪車購入のためのローン利用者を対象とした安全運転教育を行う新たな取り組みを開始しました。



インド

短期間で二輪車の運転を学べる女性向けプログラムは、地域における女性の自立支援にもつながっています。



2009年安全運転普及活動動員数(2009年1月~12月末見込み)

●Hondaグループ活動

地域普及活動

あやとりシリーズ	指導者	1,054人	その他イベント	指導者	298人
	参加者	2万5,354人		参加者	1万2,907人
いきいき運転講座	指導者	139人			
	参加者	48人			

交通教育センター

企業向け四輪教育	指導者	5,191人	個人向け四輪教育	参加者	5,270人
	参加者	2万8,112人	個人向け二輪教育	参加者	4万4,828人
企業向け二輪教育	指導者	1,094人	その他	指導者	218人
	参加者	3,888人		参加者	1万3,609人

販売会社

安全運転講習会	参加者	1万3,082人	Hondaグループ活動合計	指導者	7,994人
				参加者	14万7,098人
			総合計		15万5,092人

●地域連携活動

地域普及活動

指導者 92人
参加者 21万5,878人

その他イベント

参加者 1万2,591人

教習所*

参加者 2万9,070人

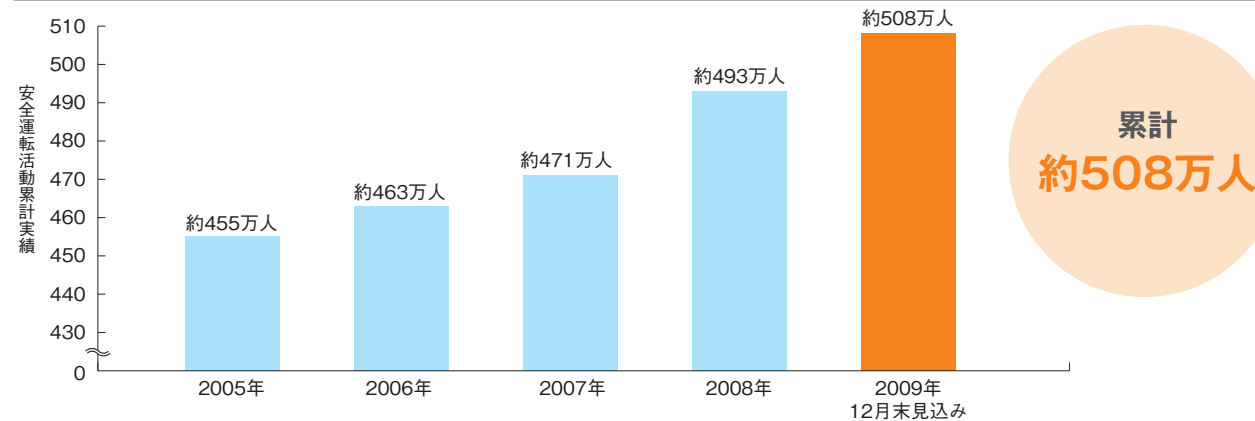
地域連携活動合計	指導者	92人
	参加者	25万7,539人
総合計		25万7,631人

●海外

安全運転普及活動参加者(タイ、ブラジル、インド、トルコ、スペイン、ハンガリー、シンガポール、マレーシア、インドネシア、ベトナム、中国、韓国、フィリピン、ロシア) 222万3,706人

※16校での活動実績です。

2009年安全運転普及活動動員数累計(Hondaグループ活動1970~2009年12月末見込み)



安全運転普及活動の体制

活動の場	活動内容	指導者	主な対象					
			子ども	学生	成人	高齢者		
国内	販売会社	四輪 レインボーディーラー制度*1	店頭安全アドバイス 安全ミニ講習会 ドライビングスクール 地域の交通安全活動協力	セーフティコーディネーター チーフセーフティコーディネーター				
		二輪 セーフティサポートディーラー制度*2	店頭安全アドバイス ライディングスクール 地域の交通安全活動協力	ライディングアドバイザー スポーツライディングスクールインストラクター				
		汎用	店頭安全アドバイス	モンパル安全運転インストラクター モンパル安全運転指導員				
	交通教育センター	運転者、指導者研修 二輪・四輪販売拠点研修 一般ライダー、ドライバースクール ドライビング・ライディングシミュレーターによるトレーニング 指導者の交流と指導力向上のためのイベント、競技会 各年代別講習	交通教育センターインストラクター					
	地域活動拠点	地域の交通安全活動協力 指導者養成協力	Hondaパートナーシップ・インストラクター					
	自動車教習所との連携	地域の交通安全活動協力						
	Honda事業所・関連会社	従業員への交通安全指導 Hondaファーストエイド	安全運転インストラクター Hondaファーストエイド主任講師 Hondaファーストエイドインストラクター					
	地域活動	教材開発 指導者育成 授業実施	教職員 交通安全指導員					
	業界活動	交通安全キャンペーン 交通安全教育プログラムの編纂 指導者養成協力						
	海外	販売拠点(四輪・二輪)	店頭安全アドバイス ドライビングスクール ライディングスクール 地域の交通安全活動協力	販売拠点インストラクター				
現地法人 交通教育センター		指導者研修 二輪・四輪販売拠点研修 一般ライダー、ドライバースクール ドライビング・ライディングシミュレーターによるトレーニング 地域の交通安全活動協力 運転免許取得講習 指導者の交流と指導力向上のためのイベント、競技会	交通教育センターインストラクター					

*1レインボーディーラー制度: Hondaの安全に関する認定基準を満たした四輪販売拠点。*2セーフティサポートディーラー制度: Hondaの安全に関する認定基準を満たした二輪販売拠点。

その他の主な情報公開

Hondaの「業績」や「CSR」「環境保全活動」「社会活動」については、下記の冊子およびWebサイトで情報を開示しています。

CSRレポート

HondaのCSRの考え方と「事業」「環境」「社会」「品質・安全」における取り組みについて2008年度の主な実績をまとめた報告書。2009年7月発行

<http://www.honda.co.jp/csr/>



アニュアルレポート

Hondaの2008年度の業績の概要をまとめた報告書。2009年7月発行

<http://www.honda.co.jp/investors/annualreport/2009/>



環境年次レポート

Hondaの環境取り組みの考え方と2008年度の主な実績および今後の目標をまとめた報告書。2009年6月発行

<http://www.honda.co.jp/environment/publications/report/>



Hondaの社会活動Webサイト

Hondaの社会活動の考え方や幅広い活動内容を紹介するWebサイト。

<http://www.honda.co.jp/philanthropy/>



Hondaの安全運転普及活動に関する情報はWebサイトでもご覧いただけます。



詳しくはホームページでも紹介しています。

ホンダ 交通安全 検索

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>

本冊子に関するお問い合わせ先

本田技研工業株式会社 安全運転普及本部
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
TEL 03-5412-1736 FAX 03-5412-1737





すべての人の
安全をめざして



Safety for Everyone

すべての人の安全をめざして

「お客様に対して単に製品をお渡しするだけでなく、安全も一緒にお渡しする」

安全に対する揺るぎない理念を掲げ、

お客様との温かい心の触れ合いを大切にしながら、

手渡しの安全に取り組んできました。

いま、Hondaがめざすのは、「すべての人の安全」。

運転者、歩行者、自転車利用者……交通社会に参加するすべての人の安全を追求する。

安全運転普及活動を通じて、より豊かなモビリティ社会の実現をめざしています。



Hondaの「安全」への想い 事故から、人の命と 未来を守るために

約40年前、安全運転の普及を使命として、Hondaの安全運転普及本部は誕生しました。
ハード(製品)とソフト(安全教育)の両面から安全を追求するとともに、
「人から人への手渡しの安全」と、危険を安全に体験する「参加体験型の実践教育」を
活動の原則とし、現在までその活動は途切れることなく続いています。
Hondaの「安全」への想い、安全運転普及活動の始まりと歩みについてお伝えします。



役員室での決断

「それは結構なことだ。ぜひ、やってくれ。」
一九七〇年九月十一日。ホンダの役員室で、社長の
本田宗一郎と副社長の藤澤武夫は、専務の西田通弘
からの提案に迷わず決断を下しました。その提案と
は、ホンダが一九六四年から、白バイ隊員や郵便配達
員などの官庁や企業を対象に行っていた二輪車の
交通安全教育を、一般ユーザーまで拡大し、さらに
四輪車にも適用することでした。

また、この提案時に西田は、「耐久消費財である
クルマは、ハードウェアとしての安全性を保証する
だけでなく、使用者に対して、正しく楽しい乗り方
といったソフトウェアを加えて、初めて商品になる。
すなわち、ソフトウェアも商品であるという考え方に
頭を切り替えるべきである。」と語り、車と安全
教育の相互関係を強く訴えました。

その年、交通事故死者数は年間二万六千六百五十二人と
史上最悪を記録。「安全運転」という考えも社会に
あまり知られておらず、多くの人の命が失われてい
たのです。

全国の人々に安全を届けたい

それから二十日後の一九七〇年十月一日、自動車
メーカーの社会的責任として、安全運転を全国に
広めるために「安全運転普及本部」(以下、安運本部)
が設立されました。参考となる組織がどこにもない
中で、驚異的ともいえるスピードでの発足でした。

一日でも早く設立することが、一人でも多くの命を
救うことにつながると考えられたからです。

そして設立の約半年後、活動に一つの契機が訪れま
す。それは、ホンダが出した新聞の全面広告でした。
広告には企業姿勢と共に「安全運転普及のための
活動」という題で、「安全運転普及指導員の育成」など、
十一の活動が宣言されました。宣言に示された活動
の重要性と目的は、瞬く間に全国の四輪・二輪販売
会社のスタッフに広がり、宣言に賛同した多くのスタッ
フが安全運転普及指導員の資格を取得し始めました
(現、セーフティコーディネーター/チーフセーフティコー
ディネーター/ライディングアドバイザー)。その後、
「血の通う言葉と心でお客様を事故から守ろう」とい
う店頭活動の考え方も浸透し、彼らは人から人への
「手渡しの安全」を担う存在として急速に成長してい
くことになりました。そして、設立二年後には、安全
運転普及指導員は八千人、安全運転講習会への一般
参加者も六万人を超えるなど、活動は全国的なも
のとなり「安全運転」は着実に社会に浸透していっ
たのです。

危険を安全に体験する場の拡大

安運本部の設立後、鈴鹿の安全運転講習所(現、
鈴鹿サーキット交通教育センター)では、これまで行っ
ていた官庁・企業の運転者への安全運転講習に加え、
当時、社会問題となっていた青少年の暴走行為抑制
のため、高校生向け安全運転講習に取り組むなど、
活動の幅を広げていきました。

一九七八年には、二輪車の運転初心者向けの「ホンダ
モーターサイクリスト・スクール(HMS)」、一九九
年には、四輪車の運転初心者向けに「ホンダ・ドライ
ビング・スクール(HDS)」を開始。共に実車を使い
危険予測能力を身につけるホンダ独自の安全運転
プログラムは、多くの参加者から好評を得て、今日
でも続いています。交通安全センターも、現在では
全国八カ所に設置され、動画KYT(危険予測トレ
ニング)などの座学や、参加体験型の実践教育を通し、
危険を安全に体験する場として活動しています。

時代と共に、車やバイクの「ハード面」での安全性
は格段に進化しました。同時に、運転者の技術とい
う「ソフト面」での安全性も進化しています。そして、
ソフト面での安全性向上の場として、交通安全セン
ターはこれまで大きな役割を担ってきました。現在
では、女性や高齢者向け、エコ&セーフティドライ
ブなどお客様や社会のニーズに合わせた新しい活動に
も挑戦しながら、より豊かなモビリティ社会の実現
に向けて大きな役割を担っています。

交通事故の危険を疑似体験

「どうすれば事故の危険を体験して学べるか。」
安全運転教育が進む中で二つの課題が持ち上がり
ます。実車を使った講習には限界があり、特に路上
で実体験をさせるのは不可能だったからです。そこ
でホンダは、一九八八年から交通事故を研究し、危険
を疑似体験できる独自のシミュレーター開発に挑戦
しました。そして一九九三年に「ホンダライディング・

シミュレーター(二輪車)」が完成。その後も、さまざ
まな状況下での危険場面を学べる四輪シミュレーター
や交通ルールやマナーを楽しく学べる自転車シミュ
レーターなどを開発し続けています。もっと効果的な
シミュレーターを創りたい。その想いと可能性はさら
に広がっています。

人と人がつながり、 安全は広がり続ける

ホンダには、「人間尊重」という企業理念がありま
す。「あらゆる立場の、一人ひとりのすべての人が、
かけがえない存在である」という考え方であり、
その考え方は安全への取り組みにも受け継がれてい
ます。「安全運転」の運転者教育に始まり、現在では、
子どもから高齢者まで生涯にわたる交通安全教育に
取り組んでいます。

来年は「安全運転普及本部」設立四十周年。モビ
リティ社会で暮らす、すべての人が安全であるために。
「手渡しの安全」を実現するために。その歴史はさら
に続きます。

(語り継ぎたいこと チャレンジの50年)より



人のために、自分のために 守るべきたいせつなこと

すべての人が、生涯で一度も事故にあわないこと。

その実現には、みんなが安全を理解し合い、身につけることが大切だとHondaは考えています。だからこそ、誰もが理解できる学習方法が大切。「あやとりい」には、そんな思いが詰まっています。



身近な人と学ぶ交通安全

子は親の背中を見て育つ、という言葉があります。子どもにとって、身近な人の正しい姿はお手本であり、その姿から正しい行動を学ぶことができます。交通安全も同じです。子どもが交通安全を学ぶには、身近で交通安全を教えてくれる人の存在が不可欠です。一九九三年に鈴鹿市とホンダが設立した「鈴鹿モビリティ研究会」は、鈴鹿市のよりよい交通環境の推進と交通安全教育プログラムの開発・教育などを目的に活動を開始しました。そして、子どもたちを事故から守りたいという思いから、子どもにとって身近な存在である保護者や学校の先生、地域の方々と一緒に、交通安全を知り・気づき・学べる交通安全教育プログラム「あやとりい」を開発しました。

学ぶ年齢層に対応した交通安全プログラム

「あんぜんを・やさしく・ときあかし・りかいて・いただく」という言葉から、その名は付けられました。そして、現在では四つのプログラムが開発されています。「歩道を歩く」という当たり前ともいえる交通ルールを学ぶことから始まる幼児対象の「あやとりい ひよこ編」。日常生活における危険なポイントを学ぶ小学校三～四年生対象の「あやとりい」。自転車の乗り方を学ぶ子ども対象の「あやとりい 子ども自転車トレーニングマニュアル」。さらに、高齢者に向けたプログラム「あやとりい 長寿編」まで。いずれも教え

展開中 「あやとりい」シリーズは対象者別に4プログラム!

対象：4～5歳児

「あやとりい ひよこ編」

親から子にマン・ツー・マンで指導するプログラム。イラストやクイズを通して、交通行動の基本やマナーを楽しみながら学べます。



対象：幼児～小学校高学年

「あやとりい 子ども自転車トレーニングマニュアル」(指導者用)

実際に自転車に乗って楽しく安全を身につける体験型プログラム。「走る・止まる・曲がる」の基本動作を身につけ、交通安全に対する意識を育てます。



対象：小学3～4年生

「あやとりい」

小学校の授業を想定したプログラム。日常生活を題材に、交通安全を自分自身で考え、気づく能力を養います。



対象：高齢者の方

「あやとりい 長寿編」(指導者用)

高齢者対象の歩行者、自転車用の少人数制プログラム。座学と実技でよくある事故事例に合わせた内容を中心に、自身の交通行動を振り返り交通安全に対する気づきを促します。



くり返し学べる環境をつくる

交通ルールは、日常生活の中でとても身近なものであり、生活から切り離すことはできません。だからこそ、行動範囲が広がる幼少期から学齢期の子どもたち、増加している高齢者に向けた交通安全教育は大切です。しかし、一回の体験や学習で交通安全を身につけることは難しいものです。そのため、自分で考え・気づき・理解できる教材の開発や、仲間と楽しく学べる集団学習を中心とした、くり返し学べるプログラムへの改編に日々取り組んでいます。また、身近で交通安全を教えてくれる地域の方を対象とした指導者の育成、地域に根ざした交通安全の基礎づくりも「あやとりい」の大切な役割となっています。

「あやとりい」は進化してきました。それは「交通安全」が、単に交通ルールを学ぶことから、「自分を知り、安全を学ぶ生涯教育」へと変化したためと言えます。子どもに交通ルールを教えることを通じて、親は危険に気づき、子どもを守る。高齢者には、止まる・

生涯教育としての交通安全「あやとりい」のこれから

親と子の交通安全教育から始まり、高齢者向けのプログラムまで、時代や社会の変化に合わせて「あやとりい」は進化してきました。それは「交通安全」が、単に交通ルールを学ぶことから、「自分を知り、安全を学ぶ生涯教育」へと変化したためと言えます。子どもに交通ルールを教えることを通じて、親は危険に気づき、子どもを守る。高齢者には、止まる・

見る交通ルールを再び学んでいただくことで、忘れていた危険に気づき、身を守っていただく。これからも「あやとりい」をはじめとして、交通安全を優しくわかりやすく身につけていただくための取り組みをさらに拡げていきたいと考えています。

